リーディングDXスクール事業 【実践事例】

鹿児島市立田上小学校（鹿児島県）

【取組内容①】「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」授業における子供主体のアプリ選択と活用

子供が，目的を意識して
提案テーマ・学習形態・アプリを選ぶ

学習者主体で国語科の
「書くこと」の授業をデザイン

実践のポイント

- ○　これまで培ってきた対話型の授業をベースに，子供一人一人が自らの学習状況に応じて，提案するテーマから使用するアプリまでを選択したり決定したりした。
- ○　単元内の中では，単元内一部自由進度学習の考えを取り入れ，情報の収集・共有・整理は協働を通して行ったり，提案資料の作成の見通しをもったりできるようにした。
- ○　単元の冒頭では，前時や既習単元の振り返りを基に，課題となった点，困った点などを出し合い，教師が学級全体に問い掛けたり，友達にアイデアをもらったりしてよいことを確認した。
- ○　単元内及び授業の途中では，子供から質問があれば，全体で共有した方がよいことについて，全体に伝えるようにした。
- ○　発表前には，発表の形態も自分たちで選択することができるようにした（一人，ペア，複数など）。また，調べたり，資料を作成したりするときはグループであっても，発表は一人，また，その逆もあるなど，子供たちが自分の興味・関心，自らの学習状況等に応じて発表の形態も選ぶことができるようにした。

今までの授業

- ● 子供たちの提案資料の書きぶりが，似通ってしまったり，内容の独自性が乏しかったりする。
- ● 内容や構成がほぼ同じであるため，共有の過程で互いの作品について言及しにくい。

- ◆　子供が自ら問いを立てる。
- ◆　子供が課題解決の方法を見通す。
- ◆　子供が学習方法を選択する。
- ◆　子供が試行錯誤しながら協働する。
- ◆　子供が自らの学びを生かし，次に生かす。